いきいきまえばし人

元総社エコクラブ
チーフサポーター
城田 博巳さん・75歳
大友町

自然の中で生きていることを自覚して

城田さんがサポーターを務める元総社エコクラブは活動を始めて22年目を迎えた。

「現在は地域の小中学生を中心として、6人のサポーターと共に、水辺の生き物の調査やエコ農園での有機野菜栽培などを行っています」

県内のこどもエコクラブの中でもいち早く活動を開始。体験型の環境教育を行う動きを他の地域にも波及させた功績を認められ、昨年6月に環境大臣表彰を受けた。

「画面越しの情報であるインターネットなどでなく、実際に体験することで、より具体的に環境保全を考えられるようになります」

地球温暖化や異常気象について連日のように報道がある。状況の悪化を避けるためには、自然に親しみ身近なことから考えるのが大切だと言う。

「例えば水辺の生き物に触れることで、ごみや有害な生活排水を流さないようにするなど、水質汚染の対策を考えるきっかけになります。地球温暖化や異常気象に対しても、節電やエコ運転など、簡単なことから始められるんです」

地球規模で環境を守ることはなかなか難しいという人もいる。しかし、何事もまず一歩から。城田さんのようにエコ活動に取り組むことで、実現へと近づいていくだろう。

萩原朔美 河畔奇譚

THE BLUE CAT
猫青 定本

vol.4

問前橋文学館
☎027-235-8011

萩原朔美文学館長が各界の著名人と対談。さまざまな領域で活躍する館長の素顔に迫ります。今回は、リーディングシアターvol.3「『月に吠える』を声で立ち上がらせる」終了後のトークセッションの様子をお届けします。

右上：萩原朔太郎役の俳優・長谷川 初範さん
右下：ナレーションの声優・柳沢 三千代さん
左上：北原白秋役の萩原 朔美館長
左下：室生犀星役の俳優・林 健樹さん

●朔太郎の世界を演じて

柳沢 朔太郎の詩に接するのは高校以来。その時は大正時代の文豪の、すごく昔の作品という印象でしたけど、演じてみると、かえって新しい、新鮮な感じがしましたね。

林 前橋が生んだ朔太郎を演者と共に分かち合えた。特に、朔美さんと文学館でやれたことは心の糧となりました。皆さんと一緒にこの場を共有できて良かったと思います。

長谷川 朔太郎の詩は深く、魅力的。飛び跳ねているところも、陰鬱（いんうつ）なところも。けれど、それを音にするのはとても難しい。その表現は現代的で、100年前のものとは思えないほど。朔太郎をはじめ、彼らの生きた時代は世界的にも表現の大きな変換点だったのでは、と感じました。

●新たな出合いをこれからも

萩原 詩人の吉増剛造さんが「詩は黙読すると理解ができる。それを声に出すと魂に伝わる」とおっしゃっていたけど、本当にそうだな、と思う。読めば読むほど難しく奥深い朔太郎の世界。今後もいろいろなことにチャレンジしますよ。どんな世界に出合えるのか、どうぞお楽しみに。

（このトーク了）

CITY WATCHING

クローズアップ CLOSE UP

臨江閣で将棋の大一番

11月4日・5日、竜王戦七番勝負のうちの第3局を臨江閣で開催しました。渡辺明竜王と羽生善治棋聖が対決し、今回は渡辺竜王が勝利。今後の対局が見逃せません。また、臨江閣別館などで将棋のイベントを同時開催。子どもたちも真剣勝負を繰り広げました。

赤城南麓の宝を内外に

柏倉町のぐんまフラワーパークと阿久沢家住宅で11月4日、スローシティ国際連盟加盟を記念し、前橋・赤城スローシティフェアを開催。記念式典や地元の伝統芸能の披露、そば打ち体験、農産物直売などが行われ、来場者はゆったりした時間を過ごしました。

郷土の大名家を顕彰

群馬会館で10月21日、前橋で藩主を務めた四大名家の顕彰などを目的に前橋四公祭を開催。総社秋元公歴史まつりをPRしたり、「歴史都市まえばし」の可能性を語ったりしました。また、創作劇の前橋四公物語では、女優の小野真弓さんが朗読を行いました。